

令和5年度第3回 多摩市総合計画審議会会議録（要点録）

■開催日時 令和5年5月30日（火） 午後7時～午後8時30分

■開催場所 多摩市役所 本庁舎3階 特別会議室

■出席委員 14名（50音順）

朝日 ちさと会長、有賀 敏典委員、岩佐 玲子委員、小笠原 廣樹委員、
尾中 信夫委員、勝田 淳二委員、紀 初子委員、澤登 早苗委員、高木 康裕委員、
春田 祐子委員、福井 博文委員、細野 佳苗委員、田中 和則委員、鷲尾 和彦委員

■欠席委員1名（50音順）

宮本 太郎副会長

■事務局

阿部市長、鈴木企画政策部長、小形企画課長、秋葉企画調整担当主査、
池田主任、上川主任

■傍聴者 1名

■議事日程

開会

- 1 前回要点録の確認
- 2 第六次多摩市総合計画 基本構想（素案）について
- 3 第六次多摩市総合計画の策定スケジュール及び全体構成について
- 4 第六次多摩市総合計画の重点テーマ（たたき台）について
- 5 その他

閉会

【開会】

出席委員数は 14 名であり、定足数に達しているため審議会は成立した。

【市民ワークショップの開催報告】

事務局より 6 月 13 日、14 日、21 日に開催した市民ワークショップについて説明。

委員 私は 3 日目のワークショップに参加した。第四次の多摩市総合計画策定時からこういった会等に参加してきたなかで、かつて市民参画の意見交換会は行政への要求型が多かったが、今回のワークショップでは、自分たちがどのようにしたら良いか参加者が模索していた。第四次多摩市総合計画、第五次多摩市総合計画、第六次多摩市総合計画と、市民の皆さんが変わってきていることを実感し、大変感激した。以前と比べて格段の差がある。

会長 各グループの年代構成はバランスよく組むことができたか。

事務局 今回無作為抽出された参加者に加え、昨年度の基本構想ワークショップの参加者とわがまち学習講座の参加者のうち希望者にも参加いただき、各日 4 分野実施した。申し込みの際に希望する分野を選択いただいたため、各チームのメンバー調整は行っていないが、印象としては比較的バランスよく組めたと思っている。

【1 前回要点録の確認】

前回要点録（資料 55）の確認を行い、修正等なく了承された。

【2 「第六次多摩市総合計画」における基本構想案について】

事務局より資料 56 について説明。

（ご意見等なし）

会長 長きにわたるご議論、ご調整に感謝する。

【3 第六次多摩市総合計画の策定スケジュール及び全体構成について】

事務局より資料 57、58 について説明。

会長 第五次多摩市総合計画の評価と重点テーマが入っている。第五次多摩市総合計画からの連続性を踏まえ、前回との構成が変わった点はどこか。

事務局 今回、基本構想では分野を横断する 3 つの重点テーマを設定したため、基本計画では、それを機能させていくために目標を設定していく必要があると考えた。第六次多摩市総合計画は基本構想と基本計画が同時にスタートするため、冒頭に市を取り巻く状況や前計画の評価などを置いた。これまでは 6 つの目指すまちの姿を細分化した 13 政策であったが、今回はあえて分けずに 6 政策とし、階層が深くないようにしている。

委員 他自治体を見ると、まち・ひと・しごと総合戦略では重点テーマを設定し、総合計画では網羅的な構成にする傾向があるが、今回の計画はそうではないということか。

事務局 分野別計画の下には、多数の部門別計画、個別計画があり、それぞれ意見交換や外部評

価等を行いマネジメントしている。今後の変化が激しい時代では、既存の計画で定めたものからはみ出すものについて、いかに取り組むかが課題と考えている。そこをキャッチしていくために、分野の縦割りを超えて拾い上げ、進めていく重点テーマを設定した。ある程度機動性を持たせた部分を担うのが重点テーマであるとする。各分野の取組みはしっかりとやっていくという前提で、そこから抜け落ちていくものも含めていくものが重点テーマというつくりになっている。

委員 まち・ひと・しごと総合戦略でそちらに関する項目を重点化するという認識でよいか。
事務局 このあと説明するが、今のところまち・ひと・しごと総合戦略を総合計画に一体化し、重点テーマに取り入れることを考えている。

会長 まち・ひと・しごと総合戦略が全体をカバーして総合計画で拾うというよりは、今回は総合計画でカバーできない部分をまち・ひと・しごと総合戦略などを取り入れた重点テーマで見ていく形になっている。

委員 「はじめに」に「4 人口動態と将来展望人口」とあり、現計画の「想定人口」から「将来展望人口」に言葉が変更されているが、これはどのような趣旨か。

事務局 第六次多摩市総合策定にあたって、令和3年に策定したまち・ひと・しごと創生総合戦略の中の人口ビジョンを将来人口の前提としている。平成30年に社会保障・人口問題研究所と内閣官房が出した長期推計をベースにしながら、市として目指すべき、一定の対策を施した場合の将来人口を「将来展望人口」とした。国の推計では50年後に32%減（2065年に人口約10万人）となっているが、対策を講じることで11万3千人を目指すこととしている。

委員 そう言われるようになった背景として、まち・ひと・しごと総合戦略では、国からかなり具体的に数字を出すこととされたためと思われる。

会長 「第1編 基本計画の前提」の(1)～(5)で、かなり網羅的に今日の動きを踏まえた記載があるが、この内容はそのまま載せる想定か。

事務局 これは昨年度の策定方針で掲げた内容であり、例えば、新型コロナウイルス感染症の取り扱いなど今は大きく変わっている部分もあるため、要素を生かしながら内容を再整理する予定である。

【4 第六次多摩市総合計画の重点テーマ（たたき台）について】

事務局より資料59について説明。

事務局 複数の目標を設定し進めていくこと、総合戦略・国土強靱化地域計画を総合計画に取り込むことについて、ご意見をいただきたい。

会長 内容についてはまだ検討中であり、本日は全体の構造の確認となる。資料26「重点テーマの考え方について」の「どこの分野にも属さない取組み」については分かったが、重点テーマの進捗管理はどのようにしていくのか。

事務局 重点テーマと6つの分野のマトリックスにより「どこの分野にも属さない取組み」以外は見るができる。「どこの分野にも属さない取組み」の進行管理の仕組みはこれから考えていく。変化に強くなるためには、マトリックスには当てはまらないが実施す

べきものに対応していく必要がある。市では毎年行政評価を行い次の予算編成につなげていく取組みを進めているので、そこに組み込むイメージで抜け漏れをなくしたい。加えて、個別計画もそれぞれ改定の時期を迎えていくので、最新の状況を反映しながら専門家の意見も踏まえ策定し、今までは分野別の計画に入っていなかった項目が新たに追加される場合もある。

委員 総合計画に含まれていないため行政として踏み出せないことが今まではあったと思う。今の説明では、どの分野でもそれぞれの計画のなかで新しく問題が出れば対応する等、拾い上げるものが増えると理解した。総合計画に入っていないという理由で消極的になるというスタンスは解消すべきと考えていたため安心した。この考え方を何らかの形で計画に記載してはいかがか。

会長 「現状どこの分野にも属さない取組み」がどこから出てくるかということも重要であると思うが、今の計画に取り込まれていないところが何なのか、施策化、事業化していく何らかの道が今回想定されている。

委員 心配しているのは、審議会や議会で拾い上げられなかった問題が増えてくる可能性があることで、そこに柔軟に対応できる行政スタイルであるとよい。計画に記載がないからダメなのではなく、問題が出たときに計画を見直していくということをどこかに書き記せるとよい。

委員 基本計画で想定されていない事態に対応することは当然だが、それを計画に記載するかについては議論が必要と思う。

資料 59「重点テーマの考え方について」の図の「現状どこの分野にも属さない取組み」と「各分野の取組みのうち重点テーマに関連しない取組み」について、前者の分野別は縦割りなのではみ出すものは多くないが、後者の「重点テーマに関連しない取組み」は少なくないように思う。例えば、防災関連は、重点テーマ（たたき台）の「1 環境との共生」のなかで「安全・健康で快適な生活環境の保持」とあり、「2 健幸まちづくり」のなかでは「くらしの安全・安心」とあるが、「3 活力・にぎわい」では、国土強靱化という言葉が出てくるが、基本目標では書かれていない。つまり、防災都市づくりは、現在は「どこの分野にも属さない取組み」の位置づけに見えるが、市の主要な施策であるので、基本目標としてどこかで掲げた方がよいのではないか。国土強靱化について、活力・にぎわいでの記事を検討しているなら、活力・にぎわいの前提として防災まちづくりをここに入れても良いのではないか。

会長 具体的な重点テーマの内容は今後の検討事項であるが、何を重点テーマとするかは課題となる。

事務局 6つの「まちの目指す姿」では、防災は「5 みんなが安心して快適に住み続けられるまち」に入る。そのうえで3つの重点テーマのどこに入るかは内部でも議論しており、例えば「1 環境との共生」に入れると豪雨、水害などは関連性があるが地震などが入らないため、おさまりがよいと考えられる「3 活力・にぎわい」に入れている。3つの重点テーマは完全に独立しておらず、重なり合う部分がある。「健幸まちづくり」の「世代の多様性の確保」はまち・ひと・しごと総合戦略の人口政策と重なる。「再掲」などを含めて対応したい。

委員 表現に関して言うと、「3 活力・にぎわい」に国土強靱化は書かれているが、防災都市づくりに該当する表現は今のところ基本目標に入っていない。防災都市づくりのような根幹的で重要な施策は再掲としたとしても基本目標にできるだけ入れるのが良いのではないか。

会長 国土強靱化計画とまち・ひと・しごと総合戦略の両方を「3 活力・にぎわい」に位置づけるということでよいのか。

事務局 庁内で議論中である。今回のワークショップでは、地盤が強固であることも多摩市の魅力として出されていた。魅力的なまちをつくるには安全性の高さも入ってくる。

会長 重点テーマについては基本目標を設定していき、そこに当てはまるかどうか。あるいは進捗管理などをしていくという方向である。

委員 基本目標で進行管理をするか、あるいは分野別の事業で管理するかという2つの方法がある。分野別で管理するほうが分かりやすいとは思いますが、事務局で検討いただきたい。

会長 まだ基本目標の具体的なイメージが湧かないが、基本目標は重複があっても1～3の重点テーマをカバーできるものであるとよい。分野別の取組みはある程度厳密に管理する必要があるが、横断的な重点テーマは重なっても広くカバーし、達成状況は一つ一つ構成する事業等で見えていくことになる。少し大きなくくりで設定するイメージを持っている。

ここでは、重点テーマを設定し、それに対して資料 59 の図のように基本目標を縦横で見えていくことを皆さんに確認いただいた。

【5 その他】

事務局 次回のご案内として、6月20日19時、こちらの市役所の301会議室で開催する。7月以降は、資料60のと通りの日程となっている。7月29日は14時から17時までの時間設定としている。

答申の受領に対し、市長より挨拶。

市長 長い道のりであったが、朝日会長のもと皆様からいろいろな意見をいただけてきた。先日の市民ワークショップに私も参加したが、10代から70、80代までの幅広い世代でご議論いただいた。この審議会の今までの到達点の概略を説明し、多摩市の現在の予算、市の課題と思われるところを率直に話した。ワークショップの参加者は無作為抽出の方もいたが、市政に関心が高い方が多かった。多少割り引いて受け止めなければならないかもしれないが、議論は非常に盛り上がった。先だって1年近くにわたり皆さんにご議論いただいた基本構想を朝日会長からいただいた。本日多摩市議会で概略を説明し、改めて9月に議会で審議が行われる。

昨年の出生者数が77万人と聞くと、人口推計以上に大きく出生者数が減少していると感じる。また、地球環境についても、温暖化による異常気象などの気候変動は考えている以上にスピードが速いので、時間がないなかでいろいろなことに対応していかなければならない。そうしたなか、市庁舎の建て替えが3月議会で決定した。庁舎は数十年後も残るが、その段階で人口は10万人を割る。また、国際情勢についても、ウクライ

ナとロシアの関係をはじめ、どうなるか分からないところも多い。一方、市では、コミュニティセンターや複合施設等の利用状況、健康センターのフロア利用などに関心がある市民も多い。国の少子化対策、防衛費などについてもそうだが、短期的なこと、中・長期的なことをしっかり見ていく必要がある。建物についても、CO2削減、省エネルギーなど地球環境に配慮するとそれだけコストは多くかかる。一方で生産年齢人口の減少は加速している。私はもっと海外から人を受け入れていくべきと考えている。

私が光明を見出したのは、基本構想の「つながり 支え 認め合い いきいきとかがやけるまち 多摩」という、ポジティブな将来都市像である。「みんなが」という主語を外すことで、一人一人が自らの手でつかみ取っていくということを高らかに宣言している。そのベースには多様性、人権の尊重がある。基本構想の将来都市像は、まさに光り輝いていると思う。ポジティブに生きていくことができるような案をまとめていただきありがたいと思う。引き続き6月議会での審議や説明会などで市民の皆さんから意見をいただきながら進めたい。

以上、基本構想をいただいたお礼の言葉とさせていただきます。

事務局 本日、閉会後に答申の受け渡しの写真撮影を行う。
会長 これにて第3回審議会を閉会する。

【閉会】

以上